



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツくじについてはこちらから
[スポーツくじ理念広報サイト「GROWING」]
<https://www.toto-growing.com/>



特集★次世代の人材育成・人材確保に取り組むクラブ

一般社団法人 **Sany TOMI** (長野県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM178_tomi.PDF

特別企画★自転車プログラムを実施するクラブ

スポーツかわち「**ship**」(栃木県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM178_ship.PDF

連載★学校運動部活動の地域連携・地域クラブ活動への 移行に取り組むクラブ

一般社団法人 **アスルクラロススポーツクラブ** (静岡県)

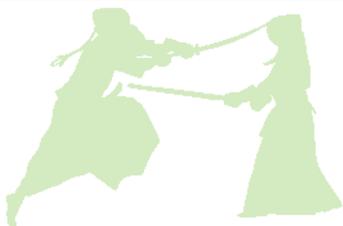
http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM178_asuru.PDF

助成金情報 ▶▶▶ [詳細](#)

お知らせ ▶▶▶ [詳細](#)

バックナンバー ▶▶▶ [詳細](#)

全体版 ▶▶▶ [詳細](#)



特集

★次世代の人材育成・人材確保に取り組むクラブ★

一般社団法人Sany TOMI

長野県東御市

活動基盤・活動環境をより充実させ、持続可能な総合型クラブの運営をめざすには、地域住民の主体的な参画によって推進され持続的な活動が行えるよう、新しい人材を積極的に受け入れ、世代交代を図りながら次世代の育成・継承に係る体制を整えることが必要となります。

そこで今回は、人材育成・人材確保に取り組むクラブについてご紹介します。

1

クラブ概要

「こども旋風」をまきおこせ！ 誰もが笑顔で輝ける場所それがSany TOMI

令和元(2019)年6月の設立準備委員会発足以来、スポーツ団体、行政、地域住民など、多様な主体が参画し、持続可能なクラブづくりをめざして議論を重ねてきました。コロナ渦の影響を受けながらも、地域に根ざした活動となるよう、理念とクラブ名を丁寧に検討し、令和4(2022)年2月、一般社団法人Sany TOMIとして正式に設立されました。

【理念】

こどもを中心に关わるみんなが元気になる 柔らかな「こども旋風」をまきおこす土台となる

子どもたちが元気・しあわせだと周りの大人も巻き込まれて「笑顔になる」「元気になる」「触発される」、そんな環境を地域住民とつくっていききたい、支えていききたいという想いで理念を掲げました。子どもたちだけではなく、年齢、障がいのあるなし関係なく一緒に活動ができ、要望や時代に合わせ、柔軟性を持ちながら生涯を通じて関われるクラブをめざしています。

理念策定において、私たちは「多種目・多世代・多志向」といった一般的な言葉に頼るのではなく、より具体的な、そして私たちの心に響く言葉を選びたいと考えました。

そこで、「こども旋風」という造語を創出しました。これは、子どもたちがさまざまな活動を通じて成長し、その元気な姿が地域全体に広がるような、そんな未来を描き出したものです。この言葉は、単に多様な人々が集まる場を提供するだけでなく、子どもたちの成長を後押しし、地域を活性化するという私たちの強い意志を表現しています。

さらに、理念は単なるスローガンではなく、私たちの行動の羅針盤となるべきだと考えました。新しい活動を始めたり、困難な状況に直面したりしたとき、この理念に立ち返り、私たちのめざす方向性を再確認できるようにしました。

【クラブ名】Sany TOMI

S (Smile, Shine, Sunny) + any (誰でも) = 誰もが笑顔で輝ける場所

クラブ名は東御市で公募をしました。応募いただいた名前には「Smile (笑顔)」「Shine (輝き)」などの言葉を使った名前が多くあり、「S」を頭文字にした名前にした「Sany」と地域を支えたい、支えていただきたいという想いを込め、「TOMI」と東御市(とうみ)の名前を入れ「Sany TOMI」としました。

2 スクールだけでなく、東御市と連携した事業も推進

現在の活動は、あらゆる運動の基礎となる運動をする『運動スクール』、人気の習い事『ダンススクール』、バランス感覚、体幹トレーニングに最適な『スラックライン』の定例事業と農業用水の溜池を活用した『カヌー体験』などを実施しています。

また、地域のスポーツ推進、イベントの運営、学校支援など東御市と連携をした事業も積極的に推進しています。



発表会「Sany Fest.」
お寿司屋さんにふんした演技



ダンススクール「HIPHOP」クラス

地域おこし協力隊×人材で活動の促進と土台づくりを展開

また、「Sany TOMI」の大きな特徴として「地域おこし協力隊×人材」があります。

現在、「Sany TOMI」の運営をしているのは3名ですが、全員地域おこし協力隊の経験者です。地域おこし協力隊とは、都市部から人口減少や高齢化など、さまざまな課題を抱える地域に移住し、地域の魅力を発掘・発信したり、地域産業を盛り上げたりするなど、地域活性化のために活動する人材のことです。

具体的な活動内容としては、地域ブランドや特産品の開発・販売、農林水産業への従事、住民支援、観光振興など、地域によってさまざまな活動があります。

国から自治体へ補助金が交付されるため、協力隊には、報酬(生活費として支給)、住居(住む場所提供)、仕事(地域活性化のためのさまざまな仕事)が提供されます。

任期は一般的に3年間ですが、地域によっては異なる場合があります。任期終了後には、地域に定住し、地域の一員として活躍することが期待されています。

それぞれの地域おこし協力隊としてのミッションは、現クラブマネージャーの上菌は「総合型地域スポーツクラブの設立」で立ち上げ、アシスタントマネージャーの鈴木は「児童期の運動促進」で基盤づくり、現地域おこし協力隊の森山は「地域の幅広い世代に向けた運動促進」で活動の促進と土台づくりから展開まで、と地域おこし協力隊が主体となってクラブをつくり上げてきました。



(左) 森山 雅斗
 ~2022年 日本体育大学学友会体操部
 2023年4月~地域おこし協力隊

(中) 上園 美千代(クラブマネージャー)
 2018年4月~地域おこし協力隊
 2021年4月~特任地域支援員
 2022年3月 退任

(右) 鈴木 清香(アシスタントマネージャー)
 ~2016年 日本体育大学学友会体操部
 2020年4月~地域おこし協力隊
 2024年3月 退任

東御市はスポーツ振興に、地域おこし協力隊制度を積極的に活用しています。都市部からスポーツ振興の担い手を招き入れ、地域住民と協力して「Sany TOMI」を設立しました。スポーツを通じた地域活性化を推進しています。日本体育大学との連携協定も活かし、スポーツの力で東御市をさらに元気なまちへと変えていく取り組みを進めています。

3 若手人材の活躍が地域に新たな風を吹き込み 相乗効果が生まれる

地方では、若者の減少が深刻な問題となっています。この問題解決の一環として、東御市の地域おこし協力隊制度と、東御市と日本体育大学との連携協定を活用し、スポーツ分野で高い専門性を持つ人材を積極的に誘致しています(日本体育大学とは連携協定締結前から体操部の夏合宿やゼミ合宿、野外活動実習の受け入れを行っているという関係がありました)。



日本体育大学体操部出身者による「運動スクール」

「Sany TOMI」の鈴木、森山もその一例です。2人は、日本体育大学で培った知識と経験を活かし、地域スポーツの振興に貢献しています。この取り組みは、若手人材に安定した生活基盤と活躍の場(地域おこし協力隊×Sany TOMI)を提供することで、安心して自身のやりたい活動ができ、そしてそのことが地域活性化につながっています。

また、このように県外からの人材によって地域に新たな風が吹き込まれています。それぞれの経験や知識を活かした新たなプログラムや仕組みが生まれ、地域の魅力向上や事業の効率化に貢献しています。地域住民や組織との連携を通じて、新たな価値観が生まれ、相乗効果を発揮しています。

今後の課題としては、地域おこし協力隊の定着率向上です。隊員が退任後も東御市で働きたいと思えるよう、魅力的な仕事や生活環境を提供する必要があります。そのためには、地域企業との連携強化や、新たな雇用創出に向けた取り組みが不可欠です。

4

今後の展望

人材の確保・定着を図り、全世代が元気になるクラブをめざして

スタートしてまだ3年の「Sany TOMI」は、これから地域と共に成長していく段階です。人財の確保・定着を図ると共に地域に愛されるクラブとなるよう、地域課題と向き合い新たな価値の創出をしていきたいと考えています。

今後としては、「子どもを中心に关わるみんなが元気になる」という理念のもと、子どもたちのプログラムだけでなく、大人も一緒に楽しめるような新たな取り組みを、東御市や関係機関と連携して進めていきたいと考えています。未就園児の親子プログラム、子育て世代の運動不足解消や地域資源を活かした新たなプログラムの開発をめざします。

また、将来、今の子どもたちが大人になったときにも元気に楽しくいられる「Sany TOMI」をめざし、地域に根ざした活気あふれるスポーツクラブとして存在し続けられるよう、持続可能な運営体制の構築にも力を入れていきます。



青空「スラックライン」

Sany TOMIは、まだ発展途上ですが、地域の方々との共創を通じて、より良いスポーツ環境を創出していきたいと考えています。

一般社団法人Sany TOMI クラブマネージャー 上蘭 美千代

クラブプロフィール

設立年月日 令和4年2月22日(同日 法人登記)

所在地 長野県東御市大日向319

運営 会員数:117名(令和6年12月現在)、予算規模:19,693,000円(令和6年度)

特徴

- 理念に「子どもを中心に关わるみんなが元気になる柔らかな『こども旋風』をまきおこす土台となる」を掲げ、子どもたちだけではなく、年齢、障がいのあるなし関係なく一緒に活動ができ、要望や時代に合わせ、柔軟性を持ちながら生涯を通じて関われるクラブをめざしています。
- 年3回広報誌を発刊しています。
こちらをご覧ください▶<https://sanytomi.com/blog/sany-pr-mag/>

連絡先 〒389-0404 住所:長野県東御市大日向319
TEL:0268-55-3330 FAX:0268-55-3330
HP:<https://sanytomi.com/>
E-mail: info@sanytomi.com

特別企画

★自転車プログラムを実施しているクラブ★

スポーツかわち「ship」

栃木県宇都宮市

国土交通省が令和3(2021)年5月に「第2次自転車活用推進計画」を策定しました。

第2次自転車活用推進計画では目標の一つとして、日常生活における自転車利用も含めた生涯スポーツの普及奨励により、心身の健全な発達や、生きがいのある豊かな生活の実現、国民の健康寿命の延伸等をめざしています。

そこで今回は、自転車種目に取り組むクラブについて紹介します。

【国土交通省HP 自転車活用推進計画】

https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/good-cycle-japan/jitensha_katsuyo/

1

クラブ概要

地元のイベントや事業ではレクリエーションを実施

スポーツかわち「ship」は、栃木県宇都宮市の北東に位置する旧河内町^{*1}において、平成15(2003)年12月に設立しました。栃木県では4番目に設立された総合型クラブで、今年、22年目を迎えました。設立から20年以上がたち、地域に定着してきていると感じています。

活動場所に関しては施設の優先利用権等がないため、公共施設は抽選会を経て使用料を払いながら借用しています。地区内の学校の体育館は使用料がかからないので、できるだけ小・中学校を使用させていただいています。また、行政からは補助金の支援をいただいています。

本クラブは、会長1名、副会長2名、事務局員2名(公認アシスタントマネージャー資格保有者で内1名は会計担当、もう1名はクラブ全般の庶務を担当)、運営委員11名によって構成されています。毎月第3木曜日の19:00から定例運営委員会を開催し、運営全般について共通理解を図っています。教室、サークル、イベントを3本柱に活動しており、サークルは、スポーツ系13種目(一般会員対象:5種目、小学生以上対象:8種目)、文化系2種目(一般会員対象:1種目、小学生以上対象:1種目)を展開しています。

会員数は、令和6(2024)年7月現在で284名(中学生以下:170名、高校生~59歳まで:63名、60歳以上:51名)です。

河内地区には、『まちづくり協議会』という地域の中心となって活動をしている組織があります。スポーツかわち「ship」も構成団体の一つで、スポーツ部会として地元のイベントや事業でレクリエーションを実施しています。

*1) 平成19(2007)年3月31日に宇都宮市と合併した現在の宇都宮市河内地区



毎年12月、上サークルを中心に開催している『挑戦！リレーマラソン』400mトラックを活用してフルマラソンの42.195kmの距離を一人200mずつ走りながらバトンでつないでいく行事です



長く愛されている「パウンドテニスサークル」



設立当時からの活動の一つ、バスケットボールサークル

2 『総合型SCフェスタ』で自転車プログラムを実施

「自転車先進県とちぎ」を推進する栃木県

栃木県総合型クラブ連絡協議会では、誰もが気軽にスポーツやレクリエーションに親しむことのできるイベント『総合型SCフェスタ』を開催しています。今回は、71年ぶりに本県で開催される全国レクリエーション大会に合わせ、大会の主催者である（一社）栃木県レクリエーション協会と本クラブが連携し、同大会のプログラムの一環として『総合型SCフェスタ』による自転車プログラムを実施しました。

自転車プログラムを実施した背景として、以下に示すような栃木県の特徴が挙げられます。

- ①栃木県が「自転車先進県とちぎ」を標榜していること。
 - ②ジャパンカップやツール・ド・とちぎ等の国際サイクルロードレース大会が開催されたこと^{*2}。
 - ③プロサイクルロードレースチーム・宇都宮ブリッツェンが活躍していること。
 - ④県内に栃木県が整備した4つのサイクルモデルルートがあり、栃木県全域をカバーしていること。
- また、このルートを活用しながら、さまざまな自治体や団体によるサイクルイベント等の事業が行われるようになってきたこと。

そのうえで、当クラブをはじめとする県内総合型クラブでも新たなコンテンツとして、サイクル事業に期待を寄せているという背景がありました。

こうした背景のもと、総合型クラブが主体的にサイクル事業を展開することができるよう、栃木県スポーツ協会や栃木県サイクリング協会との連携により、試行的に自転車プログラムを実施しました。

*2) ツール・ド・とちぎは、平成31(2019)年第3回大会で終了

会場レイアウトを工夫して実施したタンデム自転車体験会

大会当日はタンデム(2人乗り用)自転車の体験会を行い、参加者の皆さんには特設コースでの走行を楽しんでいただきました。タンデム自転車は、健常者はもちろん、視覚障害のある方も楽しめる自転車で、令和5(2023)年からは公道での走行も可能になりました。自転車等の備品は栃木県サイクリング協会より借用することができました。

最も工夫したのは会場レイアウトです。会場は駅近くの広場で、比較的人通りも多い場所なので、どのようなコースで実施するか悩みました。さらに、会場では他にもさまざまな体験プログラムが展開されていて、使用面積にも制限があるなかでしたが、カラーコーンでコースを作成し、1周が70~80mになるような特設コースを作りました。また9月上旬での開催でしたので、熱中症対策にも気を配って実施しました。



タンデム自転車体験会の様子



3

自転車プログラム実施の効果

充実した「ヒト・モノ・カネ」への第一歩

自転車を活用した事業では安全管理が不可欠なため、十分な人員の配置など解決すべき課題があります。今回、栃木県スポーツ協会や栃木県サイクリング協会と連携して実施したように、関係団体と協力しながら「ヒト・モノ・カネ」といった面の充実を図っていく必要があると感じました。

栃木県は自転車活用推進計画が策定されるなど、自転車活用の気運が高まっている県といえます。通勤・通学での活用に加え、県内ではさまざまなサイクルイベントも実施されています。サイクルイベントに、私たちのような総合型クラブが参画するなど、自転車を通じた各関係機関・団体との連携が各地域で展開されています。

私たちも今回のタンデム自転車の体験会を通して、地域の方々に楽しみながら体を動かす機会を提供でき、クラブとしてもノウハウや各関係機関・団体等とのつながりを得ることができたと感じています。

4

クラブの今後の展望

組織のマンネリ化を防ぐための時代に合わせたクラブ運営をめざす

特にサークルに参加している一般会員には、メンバーの固定化と高齢化がうかがえます。一方で、河内地区は、車で5～10分程度で市街地に行くことができ通勤に便利なことから、一戸建てやアパートが多く、新しい住民が増えてきています。クラブの認知度を高めるなどして新規会員の獲得に力を入れ、組織自体がマンネリ化しないように常に新たな気持ちで進んでいきたいと思っています。

宇都宮市はバスケットボール、自転車、サッカーでプロチームを所有しています。自転車においては、毎年10月の第3土・日曜日に『宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース』を開催しています。世界に誇るイベントとして定着しており、市長も自転車を通した街づくりを推奨するなど、市全体で自転車熱が高まっているといえます。今回の「栃木県サイクリング協会」との共催事業タンドム自転車の体験会を機会に、今後、本クラブでも自転車活用推進の一端を担えればと思っています。

また、クラブを設立した20年前と現在とでは総合型クラブに求められている内容が変わってきていることも感じています。現在、当クラブと市の教育委員会で河内地区の中学校部活動の地域展開について協議するなどをしています。時代に合わせた地域や地域住民のニーズに対応できるクラブ運営を心がけていきたいと考えています。

スポーツかわち「ship」事務局長 宮本栄子

クラブプロフィール

設立年	平成15年12月20日
所在地	〒329-1105 栃木県宇都宮市中岡本町3130 (宇都宮市立古里中学校内)
運営	会員数:284名(令和6年7月現在)、予算規模:約300万円(令和6年度)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ●役員を含め運営委員はさまざまな立場の住民で行政からの人はいない ●宇都宮市で一番古い総合型地域スポーツクラブである
連絡先	〒329-1105 住所:栃木県宇都宮市中岡本町3130 TEL:080-5840-5123 FAX:028-673-7147 E-mail:suporuto.kawati.ship@outlook.jp

★本記事の読み上げ動画を作成しました!

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください!
動画はこちら→https://youtu.be/Yi1ci_Mnb8



過去の動画はこちら



連載

★学校運動部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に取り組むクラブ★

一般社団法人アスルクラロスポーツクラブ 静岡県沼津市

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒数の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5(2023)年から令和7(2025)年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

1

クラブ概要

アスルクラロはスペイン語の青(Azul)と明るい(Claro)から由来しておりクラブのカラーにもなっています。エンブレムには静岡県東部を代表する富士山を取り入れており、富士山のように、さまざまな分野で日本一をめざしていこうという意気込みを表しています。

当クラブは、平成2(1990)年、『沼津セントラルスポーツクラブ』として、地域の青少年の健全育成を目的に、沼津市に設立しました。幼児対象のサッカー教室から始まり、児童の教室、新体操、テニス、チアリーディング、陸上競技、フェンシングと34年で少しずつ種目を増やしており、現在は1389名が在籍している総合型地域スポーツクラブです。

平成25(2013)年には、営利法人と非営利法人を用いた、ハイブリッド型のクラブ体制にするべく、サッカーJ3リーグでプロサッカーチームを運営するアスルクラロスルガ株式会社と経営を分ける形で一般社団法人アスルクラロスポーツクラブを設立しました。同じ競技の中でもさまざまな世代の方が、自分のやりたいものに合わせてスポーツを行える環境づくりをめざしています。

また、障がい者のスポーツ活動の場を提供することにも力を入れており、平成14(2002)年から自閉症スクールを22年間、ほぼ毎週行っています。

2

沼津市とのつながりを強化し 部活動との連携にも力を尽くす

沼津市との連携のきっかけ

部活動との連携のきっかけは今回急に訪れたわけではありません。

平成28(2016)年に沼津市役所の職員が、クラブで継続的に行っていた小学生の東日本大震災復興支援遠征に帯同し、寝食を共にすることで、クラブの活動に興味を持ってくれたところから沼津市とのつながりが強化されました。

それからすぐに沼津市内のスポーツ教室の後援や活動の広報などをサポートしていただきました。学校のスポーツ授業や教員へのコーチング研修の依頼などで沼津市教育委員会(以下、市教委)との交流も増えていき、さまざまな活動を共にするなかで、沼津市も改革推進期間に伴い部活動の改革に着手していくということで、令和5(2023)年6月ごろ、主管する沼津市教育委員会教育企画課よりクラブに協力の要請がありました。そして、いよいよ令和7(2025)年夏から、休日において教員が兼職兼業届を出して指導に当たることとなります。また、その指導先は各学校ではなく、市内に拠点をつくり学校の枠を越えた新たな編成で活動するチームを指導していくようになります。

サッカーリーグを実施するなどクラブ独自の取り組みも…

市教委からの協力要請がある以前から、クラブ独自に部活動をサポートする活動を10年以上行ってきています。サッカーでは、部活動で不足しがちな活動量、専門的な指導、試合による経験値を確保するべく、中学生年代の部活生をサポートする定期的な教室を開催しています。現在では市内3拠点、市外2拠点で開催しています。練習だけでなく、クラブの人工芝グラウンドで独自のリーグ戦である「MIRAIリーグ」を行い、スポンサー様からの支援を受けて、同じ年代の選手たちと定期的に切磋琢磨できる環境をつくっています。



クラブエンブレム



クラブ独自で定期的に行うMIRAIリーグ

3つの分野を柱に部活動地域移行へ

部活動の地域移行に関して、アスルクラロは主に3つの分野で関わっています。

1. 沼津市部活動改革検討協議会への参画

当クラブの理事長(山本浩佑)が委員として、未来のスポーツ活動の形をつくっていくメンバーとなり、総合型クラブの立場で新しい考え方や概念を発信し続けています。沼津市部活動改革検討協議会のメンバーは学校・教育関係者、地域自治会関係者、スポーツ関係者など有識者で構成されています。

【沼津市部活動改革検討協議会の取り組み内容】

少子化が進むなか、国から中学校部活動を地域移行する方向性が示されたことを受け、本市においても具体的な対応が求められています。部活動の地域移行にはさまざまな課題があるため、幅広い関係者などで構成する「沼津市部活動改革検討協議会」を設置して意見を伺いながら、本市における取り組みの方向性等を示した「沼津市部活動地域移行取組方針(案)」を作成しました。



沼津市部活動改革検討協議会の様子

2. クラブから部活動コーディネーターを派遣

沼津市では、部活動の地域移行を進めるため、学校や保護者、生徒たちからの現場の声を聞いて、各競技団体との調整をする役割の部活動コーディネーターを配置しています。そして、クラブから派遣している部活動コーディネーターは各方面の調整を図り、実証事業の実施や、部活動の地域展開を推進することに従事しております。

3. 市内中学生年代においてサッカー競技の新たなプラットフォームを創設

沼津市でも単一校で中体連(中学校体育連盟)などの大会出場が難しくなっている状況について、部活動改革検討協議会でも話し合いは行われていますが、実際には沼津市は、競技ごとに部活動地域移行の形が異なるため、競技ごとに行政や競技の協会・連盟関係者、現在の競技顧問の先生方と協議をしています。中には部活動を廃止して、地域のクラブに誘導する競技もあります。平日は各学校で部活動を行い、休日活動をクラブで運営していきます。ある程度のエリアを想定して拠点をつくり、近隣複数の学校を集約する形でチーム活動を行う予定です。

しかし、サッカーに関しては各学校単位から、エリアをイメージした拠点で活動するという新しい形で進んでおり、沼津市では令和7(2025)年度夏から他競技に先行して土日の地域移行をしていくため、行政、サッカー部顧問、アスルクラロで新しい形を協議しています。

また、教員の中には指導に関わりたい方も数多くいるため、市教委に兼職兼業届を提出して、土日の活動に関してはクラブのスタッフとして指導に当たります。そして、広報や教室の案内、入会・退会処理を含めた会員情報の管理、会費徴収や謝金の源泉徴収等の経理・会計の業務、アプリを使った連絡などの運營業務はアスルクラロが担うという新しい形を市教委と教員と共に進め、令和7(2025)年夏から開始していきます。

3

すべての課題は解決していないが 徐々に効果を上げている実証事業

沼津市で行っている実証事業に協力して、部活動にコーチを派遣して指導に当たっています。指導においては、生徒、保護者、学校からはアンケートでも良い効果として感じていただけている部分が多いと思います。特に生徒からは「専門性の高い指導が受けられてうれしい」「クラブのコーチから指導を受けられる機会をもっと増やしてほしい」という言葉も多くいただきます。

一方で、実際に取り組んでみると、クラブとして部活動の時間帯に指導者を派遣することの難しさ等を感じています。つまり、部活動の時間帯は、クラブの活動としても指導者がいちばん稼働する時間帯のため指導者を派遣しづらい部分があるからです。これは私たちだけでなく多くのクラブが直面する難しさではないでしょうか。

実証事業への協力は2年目になりますが、やってみてわかる課題は細かいことも含めるとまだまだあり、すべての課題が解決しているわけではありません。今は実証事業ということもあり評価していただけているかもしれませんが、持続可能な会費設定や時間の変更をしたとき、同じように満足していただけるのかわかりません。これは確定していることではありませんが、現状想定される会費は、土日いずれかの活動で週1回、月4回程度、月額3,000円程度と考えられています。当クラブとしては今後も継続的に部活動の地域移行に取り組み、各課題に対応していきたいと思えます。



クラブで行っている実証事業の様子

4

新たなプラットフォームに取り組み 持続可能な活動を!

先述したように、令和7(2025)年度夏から新たなプラットフォームでの活動に取り組んでいきます。どういった結果になるのか、どういった反応になるのかわかりませんが、生徒の活動を第一に考えた活動なので楽しみにしています。

中学校部活動がなくなり、地域に展開されていった場合、時間、指導者、会費徴収、会場確保の方法など変化することが多くなっていくと思います。この変化によるハレーション(副作用)はそれぞれの場所で起こっていくと予想されます。今までと違うということを、クラブだけでなく、生徒や保護者、学校、行政とも共有して、受け入れ、新しい形を運用できるクラブ体制をつくるのが現在の目標です。

今後も行政、沼津市スポーツ協会とも連携して、持続可能な活動を展開していけるように努めていきたいと考えています。

一般社団法人アスルクラロスportsクラブ 理事 芹沢 翼

クラブプロフィール

設立年月日 平成2年4月26日(平成25年11月法人登記)

所在地 静岡県沼津市西熊堂711-1

運営 会員数:1,389名(令和6年11月現在)、予算規模:15,000,000円(令和6年度)

特徴

- 多種目の活動展開
- 世代に合わせたプログラム
- 行政との連携
- 地域との連携
- 企業との連携
- 地域の健康増進
- 福祉活動の推進

連絡先 〒410-0051 住所:静岡県沼津市西熊堂711-1
 TEL:055-929-8633 FAX:055-922-0130
 HP:<https://azul-claro-sports-club.jp>
 E-mail:info@azul-claro.jp

助成金情報

ヨネックススポーツ振興財団2025年度助成金

[実施団体] 公益財団法人ヨネックススポーツ振興財団

ジュニアスポーツ振興助成事業(全スポーツ競技)

すべてのスポーツ競技において、ジュニアスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつ当該団体としての活動を実施している団体を対象とします。また、中学校部活動の地域移行に関し、中学校等と連携を図り推進している団体を対象とします。

[申込期間]

後期対象期間:2025年10月1日～2026年3月31日の事業

申請開始:2025年4月1日 10:00

一次締め切り:2025年5月10日 15:00

最終締め切り:2025年6月10日 15:00

審査結果通知:2025年9月上旬(予定)

2023年度よりWeb申請に変更となりました。

締切日直前は申請システムへのアクセス集中が予想されますので、余裕をもって申請を行ってください。

https://www.yonexsports-f.or.jp/grant_application/

お知らせ

『多種目』『多世代』『多志向』の活動はまさに“THE総合型クラブ”！ 「調和SHC倶楽部」の取り組みをJSPOPlusにて紹介

「総合型地域スポーツクラブ(総合型クラブ)」は、一般的に「地域の人々の年齢、興味関心、技術技能レベル等に応じたさまざまなスポーツ機会を提供する、『多種目』『多世代』『多志向』のスポーツクラブ」です。

各都道府県の市町村単位で整備が進められ、JSPOの総合型クラブ全国協議会(SC全国ネットワーク)には、全国で1,087クラブが登録しています。

その活動の内容や規模は、各クラブによってさまざま。各クラブとも、地域のニーズを活かしたクラブ運営に取り組んでいます。

東京都調布市にある、総合型クラブ「調和SHC倶楽部」の取り組みをJSPOPlusに掲載していますので、ぜひご覧ください。

<https://media.japan-sports.or.jp/interview/146>

JSPOにおける「子どもに対する性暴力防止に向けた対応方針」を策定しました

令和6(2024)年6月19日に成立、同月26日に公布された「学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律(子ども性暴力防止法)」を受け、JSPOでは、子どもたちが、安全・安心にスポーツを継続して楽しむことができるよう、子どもたちのスポーツ環境の健全性と安全性を確保することを目的に、「子どもに対する性暴力防止に向けた対応方針」を策定しました。

JSPOでは、「子ども性暴力防止法」の趣旨を踏まえ、子どもに対する性暴力の防止や被害を受けた子どもの適切な保護・支援につなげることができるよう、JSPO諸制度において取り組みを進め、子ども自身が安全に活動に参画でき、かつ保護者が安心して子どもを託すことができるスポーツ環境の実現に向け、取り組んでまいります。

[「JSPOにおける子どもに対する性暴力防止に向けた対応方針」](#)

(参考情報)

●子ども家庭庁ホームページ

「学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律(子ども性暴力防止法)」

<https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety/efforts/koseibouhou>

●政府広報オンライン

「子どもを性被害から守るために周囲の大人ができること」

<https://www.gov-online.go.jp/article/202312/entry-5240.html>

「令和6年度第3回女性スポーツサポート研修会」 参加募集のお知らせ(1月27日受付開始)

令和6(2024)年12月に改訂した「女性スポーツ促進に向けたスポーツ指導者ハンドブック」の内容に基づいた内容で実施します。女性とスポーツに関する現状と課題の理解を深めることを目的に第3回はZoomウェビナー形式で開催します。一部の競技・資格を除いて、更新研修の対象にもなりますので、女性のスポーツ指導現場に携わる指導者、競技者の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

▼詳細(講演者・内容・注意事項等)はこちら

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid1221.html>

▼ハンドブックはこちら

<https://www.japan-sports.or.jp/women/tabid1336.html>

■日時(入室開始 12:30~)

令和7(2025)年3月2日(日) 13:00~16:25

■参加料:5,500円(税込)

■定員:500名

■申込受付期間

令和7(2025)年1月27日(月)~2月18日(火)

■申込方法

【JSPO公認スポーツ指導者の方】

▼指導者マイページ

https://account.japan-sports.or.jp/sign_in

<備考>

本研修会の参加により、JSPO公認スポーツ指導者資格の更新研修を修了したことになります。
(一部の資格を除く)

詳細は当協会ホームページ(<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid233.html>)をご確認ください。

【公認スポーツ指導者以外の方】

下記URLからお申し込みください。

第3回:<https://online.npc-tyo.co.jp/event/91313/spGoOjd49z6e>

<本件に関する問い合わせ先>

【研修会の内容について】

公益財団法人日本スポーツ協会 スポーツプロモーション部 プロモーション課

TEL:03-6910-5810 Mail: woman@japan-sports.or.jp

【日本スポーツ協会指導者資格の更新について】

公益財団法人日本スポーツ協会(JSPO)スポーツ指導者育成部

※指導者マイページメニュー内の「Q&A・お問い合わせ」内のフォームからお問い合わせください。

2024年度 スポーツ法講演会

『部活動の地域展開の現状 ～現場の法的課題を探る～』のご案内

関東弁護士会連合会が部活動の地域展開をテーマにシンポジウムを開催いたします。講師をお招きし、学校部活動における現場の課題をお話しいただきます。部活動の地域展開の現状と法的課題について考える内容となっておりますので、ぜひご参加ください。

■日時(入室開始17:45～(予定))

令和7(2025)年2月26日(水) 18:00～19:30

■開催方法:Zoomウェビナー

■参加料:無料

■定員:500名(先着順)

■申込受付期間

令和7(2025)年1月28日(火)～2月21日(金)

■申込方法

下記URLまたは次ページ下部に記載の二次元コードにアクセスのうえ、お申し込みください。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_iq6TuwRwSzihMV2_7SC4yw